

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 40 号

平成 17 年 8 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

ス波尔ジョン「朝ごとに」より (1)

ス波尔ジョン(1834 - 1892)

1834 年 6 月 イギリス、エセックスのケルブドンで生れる。

1850 年 1 月 15 歳のとき、悔改め。コルチェスターの小さなメソジスト教会で、「若き人よ、イエス・キリストを仰ぎなさい。仰ぎなさい！ 仰ぎなさい！ 仰ぎなさい！ 仰ぎ見て救われること、これ以外にあなたのなすべき事はないのです。」という説教を聞いて回心。15 歳の少年の生涯を変えたばかりでなく、数え切れないほど多くの人々の生涯も変えることになった。

16 歳のとき、最初の説教

1851 年 ウォータービーチ教会牧師(17 歳)

1854 年 4 月 ロンドンの有数の大教会、ニューパーク・ストリート教会の正式牧師

以後 38 年間、同教会を牧する。

教会員は、13000 人を越えた。

1861 年 27 歳のとき、ロンドン・メトロポリタン・タバナクル(6000 人を収容する大会堂)の献堂式

彼は直接伝えた福音の言葉によって、大会衆を主に導いたばかりでなく、説教著作は印刷されて、地のすみずみまで主の御手を広げた。

1892 年 1 月 昇天、葬式のときの説教のテキストは、イザヤ書 45

章 22 節「地の果てなるもろもろの人よ、私を仰ぎのぞめ、そうすれば救われる」

19 世紀の最大の説教者。

「朝ごとに」(いのちのことば社)は、素晴らしい霊想の書。「夕ごとに」もある。また、同じスボルジョンの「ただ恵みによって」(羽鳥明訳、いのちのことば社)も、昔読んで素晴らしい感銘を受けた本。これから数ヶ月、「朝ごとに」から引用いたします。

「朝ごとに」は、いのちのことば社(T E L 03 - 3353 - 9346、F A X 03 - 3357 - 7943)で、今も発行されていますから買うことができます。

1 月 2 日

ひたすら祈り続けなさい。(コロサイ 4・2)

祈りのない魂は、キリストのない魂である。祈りは信仰の幼な子のかたことであり、戦っている信者の叫びであり、臨終の迫った聖徒がイエスの中に眠る時の歌である。祈りはクリスチャンの息であり、合言葉であり、慰めであり、力であり、ほまれである。

もしあなたが神の子であるなら、あなたはあなたの父である神のみ顔を求め、また父である神の愛の中に生きることを望むだろう。

この年も、あなたが聖く、謙遜で、熱心かつ忍耐強くあるように祈れ。キリストとのより深い交わりに入り、さらに繁く愛の饗宴に入れ。あなたが他の模範となり、祝福となり、さらに主の栄光のために生き得るように祈れ。この年の標語は、「ひたすら祈り続けなさい」でなければならない。

1月6日

神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思
いわずらいを一切神にゆだねるがよい。(第1ペテロ 5・7)

失望して座り込んでいてはいけない。常に前途に希望を持て。艱
難の海に対して信仰の武器を取れ。あなたの抵抗がその患難を終ら
せるであろう。あなたをかえりみておられる方が1人おられる。そ
の目はあなたに注がれ、その心はあなたの苦悩をあわれんで脈打つ。
その全能の見てはあなたに必要な助けをもたらされる。まっ黒な雲
も恵みの雨によって散らされる。真夜中の暗さも輝きに変る。もし
あなたが神の家族の一員であるなら、神はあなたの傷の手当てをし、
失望落胆をいやされる。艱難のゆえに神の恵みを疑ってはならない。
神が順境のときにあなたを愛しておられるように、患難の時も愛し
ておられることを信ぜよ。もし、神の摂理にすべてを委ねるなら、
どんなに落ちついた静かな生活を送ることができるだろうか。エリ
ヤはかめの中のわずかの油と、たるの中のわずかの食物によって飢
えをしのいだが、あなたも同じことができる。

神があなたを顧みていてくださるのに、なぜあなたが苦悩しなけ
ればならないのか。あなたは、魂を神にゆだね、からだを神にゆだ
ねないでいる事があるだろうか。神があなたの重荷を負うことを拒まれ
たことは、一度もない。また重荷をもてあまされた事もない。だか
ら魂よ、いらだつ心配を捨て、すべてを恵み深い神のみ手に委ねよ。

1月12日

あなたがたはキリストのものである。(第1コリント 3・23)

「あなたがたはキリストのものである。」あなたは、父なる神により、御子キリストに与えられたがゆえに、キリストのものである。キリストが血をもってあがなわれたゆえにキリストのものである。自分自身をキリストにゆだねたがゆえにキリストのものである。また、キリストの名を受けた兄弟であり、キリストと共同の相続人なるがゆえにキリストのものである。それゆえあなたは、イエスのしもべであり、友であり、花嫁であることを行いにより世に示せ。罪の誘惑を受けたとき「私にはこの悪事はできぬ、私はキリストのものだから」と答えよ。永遠の原則は、キリストの友が罪を犯すことを禁じている。富があなたの前にあり、罪を犯せばそれを得ることができる時「私はキリストのものだ」と言って、それに触れるな。あなたは困難と危険に直面しているか。キリストのものであることを心にとめ、悩みの中に断固として立て。あなたは無為に日を過ごす怠け者の中に置かれているか。全力をふりしぼって働け。汗が額に流れ、怠けたくなるとき「いや、私はキリストのものであるから怠ける事はできぬ。…」と言え。

神があなたを召される時、自分自身を神に献げ、貧しいものが求めるとき、財産と自分自身を与えよ。あなたはキリストのものなるがゆえに。業務に不忠実であってはならぬ。常にクリスチャンらしくふるまい、ナザレ人のように話し、行いは天の香を放ち、あなたを見る人すべてが、あなたが救主のものであると認め、あなたの中に救主の愛と聖潔を見得るように。「私はローマ人である」ということが、気骨を誇る古代の土風であったなら、「私はキリストのものである」という言葉は、はるかにまさる聖潔を示す強い証拠でなければならぬ。

1月16日

主は言われる「私はあなたを助ける。」(イザヤ41・14)

今朝は、主イエスが私たち一人一人に向って「私はあなたを助ける」と言われるのを聞こう。「あなたの神である私があるあなたを助けるのは、ささいなことである。私がこれまでになしたことを思え。あなたを助けなかった事があるか。わたしは私の血をもってあなたを買った。あなたを助けなかった事があるか。私はあなたのために死んだ。大きなことをなした私が、小さなことをなすのを嫌うだろうか。あなたを助ける事、それは私があるあなたのためにするほんの小さい事だ。...

空っぽの水差しを持ち来たれ。泉は確実にそれを満たす。あなたの欠乏、空虚、悲哀、必要を集めて持ち来たれ。見よ、満水した神の川は、あなたの要求を満たそうと待っている。これ以上何を欲するか。魂よ、行け、ここにあなたの力がある。永遠の神こそあなたの助けである。

「恐れるな、私はあなたとともにある。

まどうな、私はあなたの神、常に、あなたを助ける。」

1月23日

民の中から選ばれたものを高く上げた。(詩篇89・19)

キリストが民の中から選ばれたのは、また、私たちの欠乏を知り、私たちに同情するためであった。

「(彼は)罪は犯されなかったが、すべての事について、私たちと同じように試練に会われたのである。」

私たちのすべてのかなしみにキリストは同情される。誘惑、苦痛、失望、優柔不断、倦怠、貧困　キリストはこれらをすべて知っておられる。なぜなら、キリストはすべてを体験されたからである。主にある友よ、これを覚えて自らをなくさめよ。あなたの道がいかに困難で、苦痛に満ちたものであろうとも、その道の上には、あなたの救い主の足跡が記されている。たとえあなたが死の陰の暗い谷間を通り、ヨルダンの濁流の淵に臨んでも、そこに主の足跡を発見するだろう。私たちがどこへ行こうと、主は私たちに先立ってそこへ行かれたのだ。私たちの選ばなければならない荷物はみな、既にインマヌエルの肩にのせられたものである。

「主の道はわが道より　けわしくまた暗かりき

キリストの行かれし道ぞ　何故にわれかこつべき」

雄々しかれ。血潮にそめられた主の足跡が途上に印せられ、茨の道を永遠にきよめている。

1月30日

バルサムの木の上に行進の音が聞こえたならば、あなたは奮い立たなければならない。(サムエル記下 5 . 24)

キリストのからだなる教会に加わるものは、祈り深く、常に聖霊の油がその心にそそがれ、キリストの王国が実現されて、「みこころの天になるごとく地にもなる」ことを求むべきである。けれどもまた、神が特別にシオンに幸いしたもう時がある。そのような時期が、ここにいう「バルサムの木の上に行進の音が聞こえる」時である。この時には、私たちはこれまで以上に祈り深くなり、熱心になり、さらには御座の前で、祈りをもって争わなければならない。潮は満ちてきた。私たちは元気よく、岸边に向かって漕いでゆこうではないか。...

主にある友よ、あなたにも、「バルサムの木の上に行進の音が聞こえる」時がある。あなたは祈りに特別の力を感じ、神の御霊があなたに喜びと楽しみを与え、聖書があなたの心を引き、約束が実現され、あなたが神の御顔の光の中を歩み、あなたの個人礼拝において特別の自由を感じ、キリストとの交わりがこれまでになく密接な時がある。このように、あなたが「バルサムの木の上に行進の音を聞く」ような喜びの時こそ、あなたが奮起すべき時である。...

あなたの帆をひろげよ。...

あなたは帆をあげることを怠ってはならない。準備のないために、追風を見逃すようなことをするな。

あなたが信仰的に強くなったときには、義務においても、いっそう熱心になることができるように。

2月4日

主がこれを愛せられる。(ホセア 3・1)

主にある友よ。あなたの経験をかえりみて、主なる神が荒野であなたを導かれた方法を考えよ。どのようにして神が、あなたに日ごとに衣食を与えられたか。どのように神が、あなたの不都合をしのばれたか。どのように神が、あなたのつぶやき、エジプトでの美食へのあこがれを聞き捨てにされたか。また岩を開きあなたを助け、天よりマナを降らせてあなたを養われたかを思え。すべてあなたの悩みの時において、神の恵みがいかに満ち満ちていたかを考えよ。

神の血潮があなたのすべての罪のゆるしとなり、神のむちと神の杖がどれほどあなたを慰めたかを思え。このように過去における神の愛をかえりみてのちに、信仰をもって神の将来における愛を展望せよ。なぜならキリストの約束と血潮は、ただ過去に属するばかりではないからである。あなたを愛し、あなたの罪をゆるすことを続けられる。キリストはアルパであり、オメガであり、初めであり終りであられる。

だからあなたが死の陰の谷を歩む時にもわざわざを恐れる必要はない。主があなたとともにおられるからである。ヨルダンの冷たい流れの中に立つ時にも、あなたは恐れる必要はない。なぜなら、死もあなたを主の愛から離すことはできないからである。あなたは、永遠の神秘のうちに入ろうとするときにも、おののくには及ばない。

なぜならば、「私は確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、私たちを引き離す事はできない」からである。

2月7日

立って去れ(ミカ 2・10)

私たちは誰でも、次の命令を聞くときが必ずある。「立ってあなたが住んでいた家庭、あなたが生業をいとなんでいた都、あなたの家族、あなたの友人を去れ。立ってあなたの最後の旅にのぼれ」と。

...

私たちは、「死」とよばれる黒い川のあることを知っている。神は私たちとともにいることを約束し、私たちにその川を横切ることを命じておられる。...

その国の話をするために、その国から帰ってきた旅人は1人もいない。...死の旅路は暗いかもしれない。しかし私たちは、神がその暗い谷間においても私たちとともにおられるゆえ、わざわいを恐れる必要のないことを知って、臆するところなく進むことができる。私たちは、地上で知り合い、また愛し合ったすべての人と別離するが「神がもくろみ、建てられたゆるがぬ土台の上にある都」の中のでわが父の家 イエスのおられる私たちの父の家 に向うのである。

それは私たちが永遠に愛する神と共に、神の民の中で神の御前に住むための、最後の引越しである。

主にある友よ、「天国」を熟考せよ。それはあなたの前進を助け、途中の苦難を忘れさせる。この涙の谷は、はるかによい国へ達するための小道にすぎないし、このわざわいの世界は、よりよき祝福の国への飛び石に過ぎない。